

JCWA

NEWSLETTER

Vol.04

日本カーラッピング協会 会報誌

[JCWAニュースレター]

発行/編集制作 一般社団法人日本カーラッピング協会 広報部

〒101-0047 東京都千代田区内神田3-2-1 喜助内神田3丁目ビル402号 FAX: 03-6206-4986

2025年 8月発行



全日本カーラッピング選手権
in 大阪

Competition Report



World Wrap Masters
EUROPE in Berlin

C O N T E N T S

[特集] 2大会レポート

◎World Wrap Masters EUROPE 2025

◎第2回全日本カーラッピング選手権 2025

▶ [特別コラム] 2大会から見た“競技会の意義”

▶ [理事からのメッセージ] #6 田中勇毅

#7 山家敬介

8人のサムライが挑戦。 肌で感じ得た “海外のレベル”

協会初 試験的海外ツアー 次回スペイン催行に手応え

JCWAでは5月6、7日、ドイツ・ベルリンで開催されたWorld Wrap Masters EUROPE (WWM ユーロッパ)に、8人の会員を帯同して参戦しました。

従来から国内大会でも強く呼びかけてきた「海外の高い技術レベル」。これを、実際に身をもって学ぶことを最大の目的に、JCWAでは海外大会への参戦支援を計画。その実験的な試みとして、岡部和彦氏がWWM Japan 2024 副賞(サイモン氏からの譲渡)で参戦を決めていたWWM ユーロッパへの参戦ツアーを催行しました。

岡部氏以外の7人は、過去のJCWA主催競技会の結果などを考慮して勧誘。あくまで試験的ツアーで岡部氏以外は自費参加ながら全員が応じ、結果的に岡部氏の3位、鈴木勇也氏の4位、トレンゴブ海氏の5位を筆頭に、“日本の技術レベルの高さ”を示すような活躍を見せてくれました。

また本ツアーでは、競技日の2日前に現地入りし、コンディション調整(時差ボケ解消)を兼ねた観光を催行。日本人選手同士の親睦を深め、情報交換を重ねる貴重な機会にもなりました。さらに競技後は、同会場で実施されたWWM FINALも観戦。各地区大会の優勝者と争われるその年の世界一決定戦は、参戦したWWM ユーロ



ワールドラップマスタース・ヨーロッパ (WWM Europe) 2025年5月6、7日 ※現地時間 ドイツ・ベルリン 展示場メッセベルリン

パをさらに上回るハイレベルな戦いが繰り広げられ、観覧した8人ともに間近で目の当たりにしたからこそ得た学び・経験は少なくなかったようです。

今回、JCWAでは苅谷伊会長が、競技会での通訳、観光・親睦機会の斡旋など、各種サポートを一手に担いました。参加会員からの評価は高く、また次回の海外大会参戦へも高い意欲が芽がっていることは、本試験ツアーの一定の成果と見ています。今回の結果を踏まえJCWAでは、正式な海外大会参戦サポートツアーの催行に向けて準備を進める方針で、まずは26年WWM スペインでの実現を目指します。

WWMヨーロッパ競技種目

Day1	F バンパー クリア PPF
1 R	F ドア インクジェット
	R クォーター カラー PPF
	クリエイティブ: ギター
Day2	F ドア カラー PPF
2 R	
3 R	クリエイティブ: ソリ
	F フェンダー クリア PPF
決勝	サイド片側全面 インクジェットメディア

市場動向踏まえた変革へ WRP は引き続き玄関の役割を

一言に「フィルム施工」といっても、カラーチェンジ、フリート、プロテクションフィルムと普段の業務・得意領域は様々。WWM では種目に PPF の採用が始まり、求められる技能のマルチ化が進んでおり、より幅広い施工事業者が参戦して価値を得られる大会となってきました。今回ドイツに渡った 8 人も、普段の中心業務やバックボーンは様々。率直な渡航・参戦の感想をご紹介します。



△左から佐々木氏、松田氏、井上睦基氏、井上徳広氏

▷ WWM FINAL 優勝のフィリップ氏、3 位表彰のサイモン氏は、24 年 11 月に東京ビッグサイトで開催した WWM JAPAN にも出場。サイモン氏は優勝し、FINAL 出場権を手にした



とにかく勉強になった！

次も海外大会に行きたい！

協会（荻谷会長）のサポートがとても心強かった。

立場は様々でも、8 人が共通で口にする“得た経験”一。

WWM ヨーロッパ
出場者たちの声

“チーム日本”でアウェー感軽減
フィルム施工業にさらに意欲！

佐々木良太 静岡県 シャンシャン Detailing

初めての海外大会、本当に勉強になった。海外選手の「ゆっくり動いているように見えてあっという間に貼り終える」施工のスピード、無駄のなさ、洗練さに圧倒。競技の始まり方も唐突だったりで戸惑いも多かった。だけど今回は日本人選手が多く、まるで 1 つのチームのような雰囲気。そして荻谷会長の心強い通訳・サポート。これがなければ、私は正直海外大会で戦える気がしません。

普段のメイン業務はディテール（コーティングやカーフィルム）。だけど腕を競い合える競技は本当に面白く、今後も国内はもちろん海外の大会にも挑戦し、フィルム施工の仕事をもっと増やしたい。

競技への想いが再燃!!
日本人同士の交流も大きな経験

松田英昭 埼玉県 TRICKSTER Wrapping, Sign

42 歳で独立し、50 歳を超えても大会に出続け、昨年の WWM JAPAN で初めて不出場。勝てない悔しさ、仕事のストレス、若い人の台頭…。大会への想いも冷めかけていた。でも蘇った。

とんでもない海外選手の技術、会長の支援、日本人選手同士の交流と、どれも貴重な経験だった。同行者も普段接点のない日本トップクラス。同室の海さんはじめ皆に戦い方、心構えを学ばせてもらった。

そのおかげで、海外だけ今までで一番冷静に戦えた。そして歳を重ねてから独立した時の反骨心・仕事への原動力を思い出した。たかが“看板屋のオヤジ”。だけど、それを覆すチャンスが競技会にある。

技術も心構えも気づきの連続。
“目標となる女性施工者”を目指し…

井上睦基 神奈川県 P-Factor Wrapping

フィルムの幅が足りない…。海外選手の施工の精確さ・早さはもちろんだが、戦い方を競技者自身が切り開く“海外らしいマインド”が新鮮で、逆に日本の競技会の運営がいかに丁寧かも改めて感じた。

学びばかりだったツアー。欲を言えば女性競技者と戦ってみたかった。限られた体格でどう施工するのか。でもスペインのビット選手は小柄ながら圧巻の腕前で、体格差は言い訳でしかないとも痛感した。

今後も PPF・WRP 問わず大会に挑戦したい。施工・競技、仕事、結婚、人生…とキャリアを思索する日々。でも“女性施工者”を象徴するような活躍をし、後に続く女性の目標に少しでもなれたらなお嬉しい。

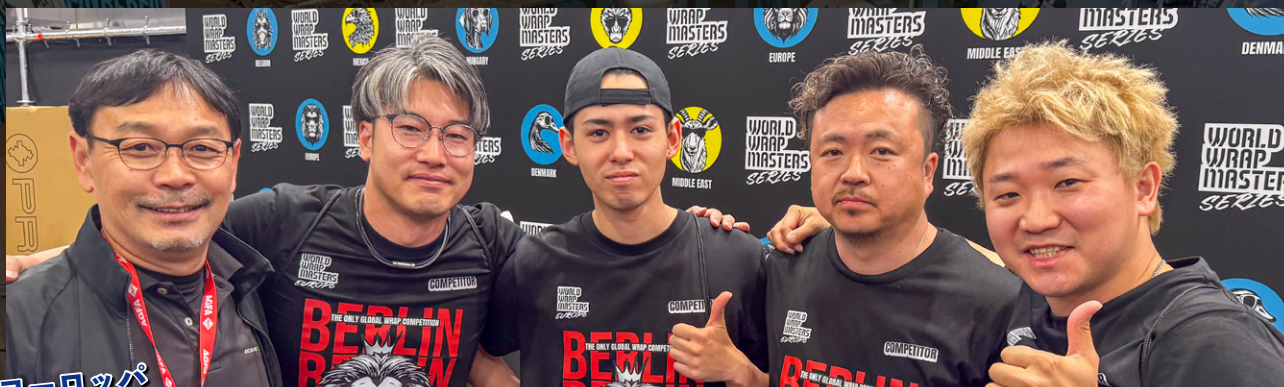
若手スタッフのサポートとして…
でも“施工者としての闘志”も！

井上徳広 神奈川県 P-Factor Wrapping

荻谷会長が自社の睦基にお声がけいただいたことがきっかけ。睦基のフォローを 1 つの目的に、せっかくならと参戦。競技の通訳・サポートもさることながら、時差ボケを解消できた前乗り観光もアテンド内容的にとっても充実しており、改めて会長に感謝申し上げたい。

競技はクリア PPF・カラー PPF の種目が多く、自社に有利な内容。ただ結果は第 1 R で…。しゃがむことすらままならない身体で、準備不足は悔いるしかない。でも参加自体に後悔は全くなく、行ってよかったし、次回海外ツアーもぜひ行きたい。まずは身体コンディションを整えるべく、すでに減量をスタート。このままでは終われない…。

WWM ヨーロッパ 出場者たちの声



ようやく見えた？世界の背中。
大会経験豊富な日本人も強かったです

トレンゴブ海 大阪府リンダファクトリー *PPF Wrapping*

もちろん上手い人はとてもキレイな仕上がりがだった。その上で、「私たち日本人も結構上手いんだなあ」が率直な印象。初めての海外大会、少しビビる部分もあったが、冷静によく見ると、上手い人もそうでない選手もいる。上手い人でも得意・苦手があり、得意な部分や処理の上手さで点数を稼いでいる。実際、日本人選手の結果は上々だった。その要因の1つは、国内で数多く競技の場を設けてもらっていることだと思う。日本人選手の競技慣れも、私が海外選手を冷静に見られたのも、その経験あってこそ。以前だったら何がスゴいかわからなかったトップクラスの技術。今回ははっきり彼らの背中が見えた。

若手スタッフのレベルアップのため。
育成者目線でも魅力的な海外大会

林田優希 大阪府リンダファクトリー *Wrapping, PPF*

これまでも何度か海外の大会には出場したが、やはり欧州・ドイツは規模の大きさを感じた。そして、なかなか埋まらない技量の差も。スピードだけなら追いつけても、収め方・処理の仕方には一歩届かない“差”を今なお痛感する。今回のドイツは、自社の海の参戦がメイン。“その差”を実際に肌で感じてもらい、一層の成長に繋がれば幸いだ。あと2年、40歳を節目に、私自身は施工者・競技者の一線を退き、施工者育成に注力する事業展望がある。それでも、海外の大会には私も継続して出続けたい。腕のある施工者として名前を売り、残したいものもあるが、出ることを感じる海外競技会の魅力が確かにある。

とにかく“お祭り”を楽しみたい
競技は退き、後進の育成、サポートへ

岡部和彦 埼玉県 WRAP GEAR *Wrapping*

素直に楽しい大会だった。会場の雰囲気や実況・BGMもエンタメ性に溢れ、観戦したWWM FINALではお酒提供のパーティも開かれるなど、日本で同じことができるかは別として、“お祭り感”に刺激を受けた。

競技の面では、勝てる可能性も感じたからこそ、率直に悔しい。でも、迷いが見られないカットティングや養生、ヒートガン扱い方、1つ1つの手順を丁寧に終わらせて最終的に素早く終える施工の運び方など、「世界との差」はやっぱり

感じましたし、自分に取り入れられる学びや反省、気づきも多かった。協会サポートによりアウェー感を感じなかったのも大きく、ユニークなクリエイティブ競技では、鈴木選手や海選手など日本人のセンスに学ぶことも多かった。

個人的には、WWM JAPAN 2025を最後に海外も含めた競技から退くことを決めている。もちろん競技に魅力を感じなくなったわけではない。これからは大会に出たい、勝ちたい若手への助言・技術協力など、自分が力になれる範

△左から菊谷会長、林田氏、トレンゴブ氏、岡部氏、鈴木氏

勝つまで参加したい！
仕事への想いも一層熱く...

鈴木勇也 埼玉県 GOODWRAP *Wrapping*

とにかく楽しかった！出場選手たちの一体感と、みんな本気で戦いに来てその気持ちを隠さずに戦ってる様がカッコいい。“得意な技術を極めた人たちの集まり”のような感じで、見ているだけで憧れが増し、真似したくもなった。個人的には、勝ち進むにつれて増す緊張感の中、決勝戦が「これまでの人生で一番充実した60分」。途中のBGMも気持ちを昂らせてくれた。

さらに、目標にしていたファイナル観戦で受けた刺激も忘れられない。「毎日の仕事を誰よりも綺麗に早く貼りたい」と仕事への熱も一層高まった。次回の海外大会ももちろん、優勝するまで参加したい。



◁ ▽ WWM JAPAN 2024で日本人最上位となり、今回のWWMヨーロッパでも日本人トップの3位となった岡部氏。全日本カーラッピング選手権では審査員として参加。



その1 交流がもたらす モチベーションと知見

競技会で苅谷会長は常々、「この場に出場した全員が勝者」との言葉を残しています。勝負である以上、勝ちを目指すのは当然。ただ、競技会出場には「勝ち以上の価値」があります。開催を重ね、多く寄せられるのが「交流で得る知見」と「切磋琢磨して得るモチベーション」を評価する声です。

初期の大会から数多く出場し、今回ドイツにも参戦した松田氏は、「普段の業務で接することのない、日本トップクラスの施工者と移動中に交流できた」ことを大きな経験の1つとして吐露。またトレンゴブ海氏も、過去の大会で交流を持ったP-Factory

に修行に出向くなど、競技会が「技能向上に直結する交流の場」として機能していることが窺えます。

そして、技能よりもさらにダイレクトに選手に還元されるのがモチベーションです。JCWA主催競技会に全出場する田中理事は、普段表に立たない施工者が同業者と競い合えること自体が価値であり、「内容の反省はするが、出場を後悔したことはない。出場した人だけが分かる喜びがある(→[関連P10](#))」と言明。競技会への選手の熱量は着実に年々高まっており、近年は満員による募集終了も早くなってきています。



Column

WWMヨーロッパで見た！ 競技会の意義 その1・2

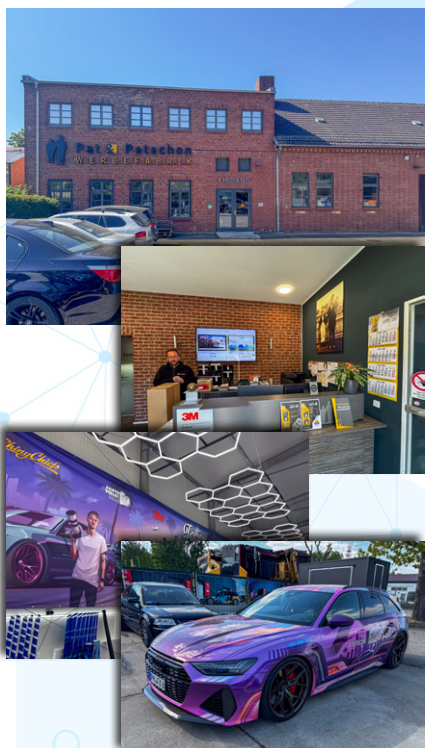
その2 現地を訪れて知る 他の市場、自国の市場

フィルム施工事業に必要なのは、施工技能だけではなく、多様なニーズに対するマーケティング、ショップづくりなど、同業から学べるそれらは、技能よりも広範な「フィルム業のヒント」です。特に海外のような自社との違いが大きい環境程、気づけることも多くあります。

カーオーナー市場はどのような動向か。どの顧客層に、どんな体制・設備環境で、どれ程の仕上がり品質を提供しているか。価格や宣伝手法、使用フィルムは…。例えば一部のフィルム先進国に見られる「在庫車両販売時の高いカラーチェンジ付帯

率」は、日本でも一層開拓を狙える潜在市場かもしれませんし、単純に「その国・その環境だから」で終える情報もあれば、「日本・自社だったらこの形で落とし込める」と活かせる情報もあるでしょう。

今回、試験催行したドイツツアーでは実施できませんでしたが、一部参加者は自主的に現地企業を訪問し、流通するブランドや施工環境など、ドイツのフィルム施工業の動向を視察しました。今後、JCWAの海外競技会参戦サポートツアーでは、自社事業の参考となるような現地企業の視察も組み込んでいけたらと考えています。





その3

新製品を知る。実際に貼る。

JCWA では様々なフィルムのメーカー・販売店と連携し、競技会の使用フィルムについても、定番から最新製品まで多数ご協賛いただいています。競技に限らず、直近の全日本 WRAP 選手権では、競技の合間に製品プレゼン・施工実演も実施。気になる新フィルムの品質や施工性に選手・観客問わず大きな注目が集まりました。

特に昨今は、カラー PPF の台頭もあり、カラーチェンジ・インクジェット・カラー PPF とラッピングだけでも素材や在り方は多様化し、製品ブランドも増加。競技会は「自社だけではカバーできないフィルム製品動向」を情報収集できる場として、今まで以上に有益な機会となってきました。



Column

全日本カーラッピング選手権で見た！ 競技会の意義 その3・4

その4

収益性に繋がる 施工スピードの向上

JCWA ではこれまでラッピング・PPF 合わせて9回の競技会を実施しました。回を重ねるごとに、参加者の技能レベルも上昇。初めのうちは規定種目を制限時間で貼り終えられない選手も少なくなかったものの、近年は序盤ラウンドでも規定内容を貼り終える選手が増え、全体的に施工スピードが向上しているように見受けられます。実際、「競技を意識して日頃から時間を測るようになった」といった参加者の声もあり、競技会が施工速度の向上に一定の寄与をしているようです。

そして、例えば110分かかっていた作業を90分で終わらせるようになる。つまり約20%作業スピードを向上できれば、5日の作業が4日に、月20日換算で4台だった作業が5台可能に、と収益性の向上に繋がります。

もちろん、接客、引取・納車、洗車・下地処理・部品脱着など、「貼り」以外の工程も多く、貼り施工も競技会と実務で異なる部分も…。それでも、「競技会を意識することで果たされる施工速度の向上」は、事業全体で見ても大きなプラスではないでしょうか。



台頭する若手世代 受け継がれる技能。

塩ビ限定！でも多彩！ 若きマルチ技能者が初優勝

JCWAは5月28～30日の3日間、大阪南港ATCホールで催された展示会「SIGN EXPO2025」内で、第2回全日本カーラッピング選手権を開催しました。サイン業界の資材・機材が一堂に会し、多数の業界関係者が来場した会場の一角、選手権でもサイン業界定番の塩化ビニル(PVC)素材にフォーカスした競技を通じ、カーラッピングの魅力を発信しました。

一言にPVCフィルムといっても、カラーチェンジ(キャスト製・カレンダー製)、インクジェットメディアと多岐にわたり、サイン業界らしい種目としてマーキングフィルムを使用したパネルラッピングも設定。近年はペイントプロテクションフィルム(PPF)の普及を受け、各国のWorld Wrap MastersでもPPFを種目採用する競技会が増え始めていますが、カーラッピングのルーツともいえる塩ビ素材の施工技能を競う今大会、全国から集った32人の施工者により、WWMに勝るとも劣らない熱量を帯びた熱戦が繰り広げられました。

その激戦を制したのは、若干23歳のトレングブ海氏。18歳からスタートしたキャリアは5年におよび、JCWA主催のラッピング・PPF各競技会に8回出場。決勝戦の舞台に幾度も立ちながら涙を飲んできた技巧派で、表彰後には「やっと勝てた」



△△競技会の上位常連で、悲願の初優勝を果たした大阪府門真市リンダファクトリーのトレングブ海氏

第2回全日本カーラッピング選手権 2025年5月28～30日 日本・大阪市 大阪南港ATCホール

と吐露し、悲願の初優勝を果たしました。

優勝者には、副賞として「ラスベガスへの渡航」も授与。世界最大級の自動車用品見本市「SEMAショー」の時期での渡航が可能です。近年のSEMAショーでは、カラーPPFを中心にフィルム製品の展示が増え、世界最先端のフィルム動向を見られる絶好の場の1つとなってきました。

近年、認知度向上とともに国際大会と連携したWWM JAPANへの関心が高まっていますが、前述の通り国内独自規格の競技会も、競技レベル・盛り上がり・アワード内容ともに遜色ないもの。JCWAでは引き続き、カーラッピング・PPFともに国内独自の競技会を実施し、施工者の技能向上や情報収集を支援して参ります。

第2回全日本RWP 選手権 競技種目

Day1 1 R	Fフェンダー カラー・キャスト 3M
	Fドア カラー・カレンダー RWF
	Rバンパー カラー・キャスト オラフォル パネルラッピング
Day2	Fバンパー カラー・キャスト KPMF
2 R	Aピラー～Rクウォーター カラー・カレンダー テックラップ
	Rドア カラー・カレンダー エイブリーデニソン
Day3 3 R	Fバンパー カラー・キャスト オラフォル
	Fフェンダー インクジェット アーロン
決勝	Fフェンダー・Aピラー～Rクウォーター カラー・カレンダー エイブリーデニソン
	F・Rドア インクジェット アーロン
	F・Rドア カラー・キャスト 3M

若手の台頭と進む世代交代ー 選手権が果たす役割

選手権で印象的だったのが、優勝者トレンゴブ氏を筆頭とした若手の台頭です。

トレンゴブ氏は施工歴5年。23歳にしては長いですが、純粋なキャリアではそれを上回る年数の施工者も少なくないでしょう。その中で栄冠を手にした背景には、日常の業務や自社の教育体制、本人の努力はもちろんですが、何度も出場した競技会での経験、またそこで生まれた交流が少なからずあると振り返ります（→[関連P9](#)）。

また、準優勝は黒川翔太氏、3位は斉藤峻氏と、2人とも神奈川県施工店ジーマイスターの若手施工者が入賞。同社も競技会へ積極的に参戦する施工店の1つで、過去に数々の競技会で優勝を飾った“国内王者”川上裕貴氏も排出。同氏は独立したものの、そのレベルの高い技能が着実に次世代へ継承されていることを示しました。

キャリア年数を覆す程の技能向上に、一定寄与できている可能性がある競技会。ただ残念ながら、「競技会出場による技能向上」の成果は定量的に示せるものではなく、「自社の業務のみでの技能向上」とどれだ

け差があるかを測る術はありません。それでも、競技会に複数出場する選手ほど、「出て初めて分かることがある」「毎回気づきがある」などと技能へのリターンを示唆。中には、メーカー講習を数多く受講した選手の「同業者との競争・交流は、講習では得られない経験」といった言葉も。現在、技能向上を図る機会は、自社での業務・練習、技術講習会、競技会など様々ありますが、「これに参加すれば完璧」というものはありません。完璧がないフィルム施工の道で、“より高みを目指すための1つのツール”として競技会もぜひ活用ください。



△左：準優勝の黒川翔太氏／右：3位の斉藤峻氏（ともにジーマイスター）

技術育成と製品リサーチを 競技会が後押し



カラーチェンジの新潮流？ ニーズに即した選択を

塩化ビニル（PVC）素材にフォーカスした今大会、スポンサー企業のご協力の下、PVC・カラーチェンジだけでも多彩な製品が競技に採用されました。

特に近年のトレンドの1つがカレンダー製フィルム。従来、キャスト製法のフィルムが高品質プロ用製品の代名詞的存在でしたが、それに加えて中国製品を中心としたカレンダー製フィルムが台頭し、施工店での使用も徐々に広がっています。特にグロス感（光沢性）に秀でた仕上がりが質感が魅力で、キャスト製フィルムを主力に一定の

シェアを誇る大手エイブリィ・デニソンもカレンダー製法の新製品「UWF」を発売。競技会では、テックラップやRWFといったすでに支持を集めるブランドから新しいUWFまで、様々なカレンダーフィルムが取り扱われました。

他方、キャスト製法でも3M「シリーズ2080・ハイグロス」など、キャスト製の高品質をそのままに艶感を向上させたフィルムが登場。従来からグロス感・品質に定評のあるオラフォル「オラカル」シリーズや、同社が新たに輸入販売を開始した英国「KPMF」など、競技に採用されたフィルムだけでも多様化の様相を程しています。

それぞれに施工性や仕上がりが品質や耐久

性、材料コストなどは異なり、ユーザーニーズに応じて“最適”も異なるため、一概にメーカー・ブランドでの決め打ちは難しいもの。加えて最近では、艶感や耐候性でPVCを上回る傾向のTUP製カラーPPFも増え、カラーチェンジ用のフィルム選びはより難解になってきています。

JCWAでは、多様化するカラーチェンジフィルムの情報発信を強化しており、今大会でも競技会への採用に加えてデモ実演を実施。また講習会でも、7月開催分からラッピングとカラーPPFを統合。各種フィルムの施工技術・ビジネス動向など、今まで以上に「カラーチェンジビジネスの現場で生かせる知見」として発信しています。

Special Interview

勤勉な若きPPF施工者 とるべくして掴んだ 悲願の初優勝

Q.初優勝おめでとうございます！

ありがとうございます。惜しかった大会も過去にあった※ので、「ようやく」「やっと」というのが率直な気持ちです。開催直前にドイツで開かれたWWMヨーロッパ（→関連P2）にも参加させていただき、そこで得た経験も含めて持てるモノを全部出し切って戦えたように思えます。

※補足：WWM JAPAN2022が3位タイ、同2023が2位、全日本PPF選手権2022、2023ともに4位

Q.若いのに競技会強者のイメージも。 改めてご経歴を教えてください

大阪のリンダファクトリーで、主にPPF部門の施工を担当しています。18歳で入社した当初はラッピング部門でしたが、施工件数の増加に伴い、2022年頃にPPF部門に異動しました。

施工技術は、林田代表をはじめとした会社の先輩方、協業する外部パートナーの方々などに教えていただいたのが礎です。製品も日進月歩なので規定のマニュアルなどがある訳ではなく、日常の施工現場で教わりつつ見て盗んで、という形で…。

ただ、第1回、第2回PPF大会では4位に入れたのに、24年の第3回大会では10位にランクダウン。もちろん自社サービスでは、しっかりとした品質を提供できていたと思いますが、技術向上という点で、壁にぶつかったような感覚を覚えました。

Q.それはどう打破されたのでしょうか？

大会の懇親会で、PPF大会で強いショップの人に少し相談し、後日武者修行に出向きました。選手との情報交換も講習も、競技はもとより施工業務にも一定の成果があったのではと感じています。また先般のドイツでもしっかり戦えたのは、国内で一定の競技慣れができていたから、そして競技への出場を重ねたことで上達できたからだと思っています。特にドイツで海外トップクラスの施工を目の当たりにした際、恐らく数年前の自分だったら、当時トップに君臨していた川上選手を見ているのと同様、何が優れていて、どの部分をどのようにしたら自分に取り入れられるかを掴み取れなかったと思います。



第2回全日本カーラッピング選手権 優勝 トレンゴブ海氏

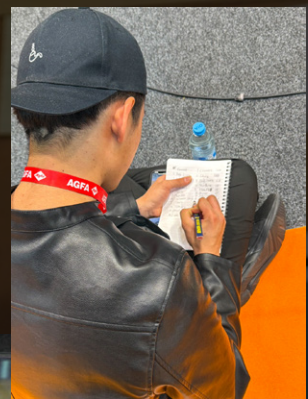
大阪府門真市の施工ショップ「リンダファクトリー」の施工者。現在23歳。18歳で入社し、カーラッピングを経て現在はPPF施工を担当。JCWA主催競技会への出場は8度目で、決勝戦にもたびたび登壇している。

そのため、その修行や、ラッピング・PPF合わせて年に約2回ペースの大会出場、果てはドイツ遠征までも「有意義な機会」として与えてくれる会社にはとても感謝しています。また、その競技会などの場を作り出している運営の方々へも同様です。

Q.今後の展望は？

フィルム施工が好きですし、あまり口が達者でもないの、施工者・技術者としてのキャリアを築いていきたいです。自分でショップを、といったことも今はあまり思い描いていません。将来は分かりませんが、個人の技術者として食べていけそうなのもフィルム施工という仕事の魅力の1つだと思っています。

また、口が達者ではないので、大会の際に刈谷会長の呼びかけにうまく答えられませんが、世界一、WWM FINAL優勝を獲りにいく気は満々です（笑）。そのためにも、日々の業務と競技、ラッピングにPPFと、今に満足せず腕を磨き続けていくつもりです。



△ドイツ大会時に真剣にメモをとる様子。＜他社に出向いての修行勝つことや技術向上にストイックな海氏

#06 | 田中勇毅

地方・壮年のリアルな “一施工事業者”の視点で…。



荻谷会長の協会発足のメッセージをインターネットで見て、すぐに入会。荻谷会長はじめ業界の方々と接点はなかったものの、その後理事に拝命いただき、現在はウェブサイト運営をはじめ微力ながら協会活動をサポートしております。

事業では、地元福島県郡山市でカーラッピング・PPF施工ショッブを営んでいます。ただ、実は私のルーツは理髪業・美容業。店舗出店にあたり内装を自前でやって経費削減を、と手を出したのがフィルム業のスタート。そこから建物の内外装を手掛けた後、周囲の施工事業者の少なさや元来のクルマ好きもあって、2015年に現業を開きました。

素人が発足してから10年、おかげさまで事業は右肩上がりに成長を

続けてこれました。その要因の1つが「協会を通じた横のつながり・情報交換」であることは間違いありません。特に全回出場している競技会は、出るたびに気づきがあり、成長があり、喜びがあり…。これがないければ、“井の中の蛙状態の一地方ショッブ”だったと思います。

地方都市の頭も良くない中年がゼロから10年やってこれた。まだまだ途上で、成功事例として吹聴するつもりはなく、また会長らのように業界の先駆者でもありません。ただ一施工事業者として、同じような立場・挑戦をする人たちの力に少しでもなれたら…。引退まで選手として出場し続けたいので競技会運営は携われませんし、私自身微力ですが、引き続き、できる限り協会運営に尽力して参ります。

#07 | 山家敬介

非施工者の立場で フィルム業の市場・魅力を—



公式SNS運用を中心に、5月の大阪の競技会では企画運営に携わらせていただいた山家です。22年から理事に参画（社では協会発足から）、自社で正規販売する3M社との架橋を務めることもあります。

私自身は、理事では少数派の“非施工者”。自社でも施工の管理やフィルムの卸販売に従事しています。そして、その立場だから感じる施工業の魅力も…。例えば1人で作業工程を完結できること。また地域単位などネットワークを築き、より効率的なビジネスをできること。材料の供給を通じてそれを支援する立場ですが、ニッチな世界ゆえにダイレクトに市場拡大を体感できる点もユニークに感じています。

一方で、スモールビジネスゆえの業界的課題もあり、その1つが情報

不足です。顧客が満足し、より市場が広がるには、事業者側のサービス品質の向上、そのための情報アップデートが不可欠。ショッブやメーカーの垣根を越えた横断的な協会の諸活動は、まさにこれに資するもので、施工者・フィルム販売者問わず意義深いものと考えています。

この世界に足を踏み入れた時、フリーでゼロから造形物ができあがるのを目にした時の感動は今も鮮明に覚えています。そのフリー系の貼り手も年々少なくなっており、将来はそちらの施工者育成にも挑めたら、などと漠然と考えたりも。まだ若輩者で施工者でもありませんが、だからこそフットワーク軽く施工業の皆さまを手伝えることもあるかと思うので、引き続き、よろしくお願い申し上げます。

あなたの仕事を楽しくするツールが揃っています カーラッピング用品専門プロショップ



カーラッピング
ペイントプロテクションフィルム
ウインドプロテクションフィルム

施工ツールはもちろん
フィルム資材についても
お気軽にご相談ください！

- 施工ツールカタログ無料配布中！
- 施工業者向け業販登録店様 随時募集中！
- 販売代理店様 随時募集中！

登録希望の業者様はお気軽にお問い合わせくださいませ。

E mail:info-ppf@designlab.co.jp TEL:0586-89-4341

オンラインショップへ
スマホでアクセス！



P-Factory オリジナル プレカットソフトウェア

I CUT PROGRAM

豊富・高精度なデータ数
直感的なユーザビリティ
フリーカット/手頃な月額

期間限定 誰でも割引プラン 実施中！

FlexiShield / LEGEND
のフィルム使用でさらにお得！

**コスパ高い
プレカットデータ**

ゼロスタートもスキルアップも！
競技会優勝ショップの実践的ノウハウ

**PPF / WPF / カラー PPF
技術講習**

材料フィルム支給
宿泊施設 無料付帯

プレカット+技術講習でさらにお得！

3日間 30万円 (税別) ~



P-Factory



LEGEND

ビーファクトリー 事業者



<I CUT
PROGRAM
のご案内

まずはお気軽にご相談ください
※講習は原則、弊社推奨メーカー・フィルムを
使用しますが、ご要望に応じ幅広く対応します



有限会社いのうえ

〒243-0307

神奈川県愛甲郡愛川町半原3871-2

TEL.046-211-5121

Wrapmania

TOOL & EQUIPMENT

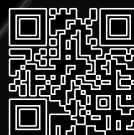
粘着フィルム販売・施工ツール・印刷・製作加工

業販登録者募集中

登録フォームはコチラ 

DFC QUEST

VERY USEFUL
VARIOUS SOCIAL NETWORKS
FOLLOW US ON



- Rinda Factory -

Vinyl Wrap Design

make a car as an artist.



“車”の美容室

CAR BEAUTY SALON

WWW.RINDAFACTORY.COM



@rinda_f

カーラッピング&
プロテクションフィルム専門店
ラプラスデザイン

大胆にイメージチェンジ！
色褪せないインジキシング！
色褪せないインジキシング！
色褪せないインジキシング！

大きな車両も繋ぎ目無しで施工可能に！
プリンター新機種導入！

無色透明のポリウレタンフィルム！
姿を見せない車のポリウレタンフィルム！

当店オリジナルデザインの
「LDカーボンメタリックグロス」

Before

After

時代は
「塗る」から「貼る」へ

カーラッピング&プロテクションフィルム

Film Installation



SEARCH ラプラスデザイン GO

TEL 024-926-0978

3M 4-star 認定インストーラー

CWI 認定インストーラー

XPEL 認定施工店



所在地 福島県郡山市菜根 2-9-8
E mail wrap@laplus.design
営業時間 9:00 ~ 18:00
定休日 火曜日
U R L https://laplus.design

古物商許可 第251080004232号
LINE y.t.lidl
Instagram laplus_design
Twitter @LapLusDesign
Facebook Laplus Design



ラジオ福島
静御前通り

内環状線

下田ヒコ科 医院

福島銀行

ヨークベニマル



3M 製フィルム 特約販売代理店

LAPPS はあなたのパートナーです

LAPPS のサービス



商品

3M商品の在庫確保と
社内検品で高品質を
提供。



サポート

累計参加者1000名以上！
定期講習会を開催。
講習会後のフォローと、
技術・ビジネス支援カリ
キュラムの提供。



普及活動

業界の最新情報を収集
し、発信。
業界全体の発展を目指
します。



東京都墨田区
カーラッピングセンター



3M™ラップフィルムシリーズ2080
スコッチガード™ペイントプロテクションフィルム
その他カーラッピングフィルム・備品等取り扱いあり！

法人向けに業販登録受付中！

詳細はコチラ

ご登録で、業販価格での販売、定期的なキャン
ペーン情報や新製品のご案内をお届けします。



株式会社ワイエムジーワン

事業本部・カーラッピングセンター
〒130-0003 墨田区横川1-1-10 すみだパークプレイス II
TEL 03-3635-1266
https://lapps.jp/
https://www.yamaga-net.co.jp/

LAPPS

LUXURY AUTOMOBILE
PROGRESSIVE PLUS STYLE



午前中の注文でその日に発送!!

REAL CARBON WRAPPING FILM

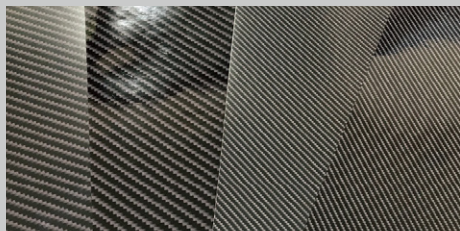
評判の人気商品! プロも認めるリアルな仕上がり!!

独自のデータ技術を駆使し、これまでにないリアル感を追求。

カーボンパターンも2種類用意し、純正カーボンパーツに対応。

デジタルインクジェットメディア AVERY DENNISON MPH1105 スーパーキャストEZRSを使用。

貼り易さもさることながら、他にはないリアルな質感が最高の仕上がりを実現します。



リアルカーボン ラッピングフィルム

左から マット(粗目)、グロス(粗目)、マット(細目)、グロス(細目)

スベック | フィルム幅 / 1480mm×~5m ※切売りOK
フィルム糊 / エアフリータイプ・長期再剥離

業販可!!

〈定価〉1m×1480mm 15,000円

商品の詳細や業販のご相談など、下記までお気軽にお問合せください!!



ご希望の方全員にサンプルを無料配布!! (10×10cm)

← QRコードを読み込み メール作成 をクリック! 必要事項を入力の上メールを送信してください。



〒253-0101 神奈川県高座郡寒川町倉見1755-1 TEL. 0466-21-8900 FAX. 0467-37-9210

ヤマックス株式会社 G-meister 事業部

WEBからカンタン注文!!
<http://www.g-meister.net>



JCWA NEWSLETTER

掲載広告 募集中



年3回発行! ※予定



70社超の協会員に配布



単号からご出稿できます
複数号掲載割引もご用意!

料金など詳細は事務局まで
お問い合わせください。

一般社団法人日本カーラッピング協会 事務局
E-mail : info@jcwa.gr.jp
TEL : 03-6277-3291